

みやまえぜき

宮前堰って どんな堰？

みやまえぜき
宮前堰



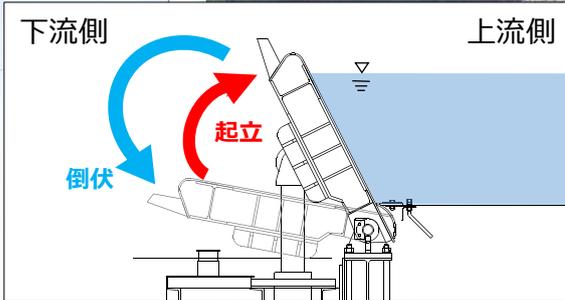
Ver.1 (2020)



①可動堰

②魚道

③魚道ブロック



① 可動堰

河川を堰止めて水路に農業用水を取入れるための施設です。洪水時に一定水位以上になると、自動で堰が倒伏して水位を下げます。

② 魚道

水の流れる速さを抑え、魚が上流に昇りやすくするための施設です。

③ 魚道ブロック

様々な水の流れを作り、魚が上流に昇りやすくなったり、魚が休息したりするための施設です。

宮前堰のあらまし

宮前堰は下野市(旧国分寺町)の一級河川姿川に位置する堰で、昭和34(1959)年に造成されました。老朽化した堰を改修するため、平成30(2018)年に工事着工し、令和2(2020)年に現在の堰が完成しました。

改修以前、農業用水を取水する際は、木製の堰板を人力で起立させていました。また、農閑期に堰を倒伏させる際は、川に流されないために命綱をつけてながら支柱(竹)を外し、堰板を倒伏させていました。

このように、堰の管理者である国分寺土地改良区は取水に変な労力を費やしていました。

改修後、堰板は鋼製となり、起立及び倒伏が自動化されたことにより、堰の管理の省力化に繋がりました。



改修前の宮前堰



命綱をつけて堰板を倒伏させる様子

栃木県下都賀農業振興事務所
栃木県下都賀地方農業振興協議会

